

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年11月17日（金） 午後6時から7時30分まで
場 所	大みか交流センター
出席人数	(1) 市 民 8人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計14人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>( 質問 ) (大みか学区) 児童生徒数の推移に沿った計画になると思うが、そのあたりはどのように考えているか。</p> <p>( 事務局 ) 今後とも子どもたちの数は減っていくので、10～20年先の見込みから計画を立てていこうと考えている。</p> <p>( 質問 ) (大みか学区) 具体的には決まっていないだろうが、どのくらいの学校が減るのか。</p> <p>( 事務局 ) 資料2の6ページに現在の児童生徒数がでていますが、これが今後も減少していくので、それを踏まえた計画となる。</p> <p>( 意見 ) (久慈学区) 自宅の周囲は、住宅ができてきて人が増えている。自分の子も家族を連れて戻ってくる予定がある。市は、人口を増やすためにどのような努力をしているのか。市に問合せをしても、たらい回しにされる。 帰ってくる予定の子の妻はフランス人で、英語、フランス語、日本語で育児をしている。市は英語教育に力を入れると書いていても、ミッションスクールなどもない。子どもにとっての魅力が足りない。 末の子は、小学校6年間の内、4年間同じ先生が担任だった。有り得ないと思うが、現実はそのようなことだった。 中学校では、人間関係がうまくいかなくなり、部活動も転々とした。部活動の顧問は、競技経験がなく指導がうまくなかった。子どもは、教師になりたいという夢を持っていたが、それらの経験から、その夢も無くしてしまった。子どもが一生懸命やろうとしても潰されてしまう。 クラスが少なくなるのは良くない。4年間も同じ先生に受け持たれては堪らない。先生と合わない子どもは大変。そこまで考えて適正配置や統合を考えてほしい。 部活動の顧問も、もっと努力して技術を磨いてほしい。外部指導者も広く受け入れてほしい。熱意のある先生を入れてほしい。 いじめ問題に対しても、子どもは親が守ってやらないと。子どもが死ん</p>

でしまってから、どうしてくれるんだと言っても遅い。親が真剣にならないと。

2クラスだったのに、1人転校してしまったために、ギュウギュウ詰め  
の1クラスになってしまうこともある。そのようなことも考えて、クラス  
編制や適正配置を検討してほしい。

**( 事務局 )**

子どもが減り学級が減って、同じ担任が続くというような、人間関係の  
固定化という弊害もあるので、複数のクラスが必要かと思う。そのような  
ことも考えながら検討していきたい。

部活動についても、地域に人材を求めてやっていければよいと考えてい  
る。

クラスの人数については、小学1、2年生は35人が定数、小学3年生  
以上は40人。1人の増減によって環境が大きく変化するような場合は、  
学校の状況に応じて教員の加配をするなど、弾力的に対応している。子ど  
もに極端な影響が出ないような学級編制は、県と協力しながら対応してい  
る。

**( 教育長 )**

貴重なお話をありがとうございます。

行政の縦割りにについては、度々御批判を受ける。教育という部内に限ら  
ず、協力しながら対応していく。

親御さんが必死に取り組まなければならないということは、おっしゃる  
とおおりと思う。だが、親御さんもなかなか思うようにできない場合もある。

本日は、適正配置をキーワードに、できるだけお子さんたちや親御さん  
にとって良い環境を整えるために、皆さんの御意見や御提案をいただい  
ている。ただいまのお話の中にもたくさんの示唆が含まれていると思う。風  
通しの良い学校風土を作っていきたい。

**( 質問 ) ( 坂本学区 )**

中小路小と仲町小が宮田小に統合された場合、どのくらいの距離からス  
クールバスを出してもらえるかというような話はあるか。

来年、必ず、対象となる学校名が公表されるのか。

**( 事務局 )**

通学距離については文部科学省から目安が出ているが、小学校で4km、  
中学校で6kmという距離（文部科学省が通学の目安としている距離）を現  
實的に歩いて通うのは難しい。原則として、歩いて通える範囲での配置を  
考えている。現状では、学区の中央に学校がある訳ではないので、2つの  
学校を統合すれば遠くなるお子さんはいる。その場合は、学区の見直しな  
ども必要になるだろう。スクールバスの活用も考えられるが、市街地では  
定時運行が難しい。また、バスを運行してまで遠距離を通わせる状況には  
ならないのではないかと考えている。

来年度中に公表するものは、学校名を上げた計画となる予定。案ができ  
たら保護者や地域の方がと話し合う機会を持ちたい。1年では収まらない  
かもしれないが、できるだけ早い時期に計画を策定し周知したい。

( 質問 ) (大みか学区)

平成30年度の入学予定者は何人か。

同窓会などで再開すると、4人に1人くらいしか学区に残らない。世代を超えて学区に残るために、就労を含めた環境整備が必要だと考える。

自分の子どもを見ていて、1クラスには限界を感じる。教育活動も満足にできない状態になるのは感じ取れる。基準には賛成だ。

( 事務局 )

来年度の大みか小学校の入学予定者数は31人で、1学級の規模。

地元に残っていただくためには、就労を含めた環境整備が必要ということで、地域創生事業などで産業、住宅、教育を含めて定住促進に取り組んでいる。これが功を奏しても、定住した方が家庭を持ち、次の世代が子育てをするまでには20～30年かかる。長いスパンで定住促進について考えていかなければならない。

( 意見 ) (金沢学区)

人口減少は止めようがない。推計が出ていたのに、何ら対策をしてこなかった。先行して対応しなければだめだ。

良い環境を個人で求めるなら、自己責任で自分で動かなければならない。行政の役割は全体を考えること。

日立市は、社人研の14万人という推計を、勝手に15万人として計画を立てているが、実態に合わせるべき。日立市は企業の町なのでものづくりにこだわり過ぎている。この町を作り替えるには、例えば観光。富を外から持ち込むようなことを考えていくべき。

なぜ、人口が減っているかといえば、若い女性が減っているからである。若い女性が住むようにしないと人口が増えない。

( 意見 ) (久慈学区)

定住促進の制度は、1年だけでなく続けてほしい。

息子はこちらに帰ってくるが、仕事がない。自宅で仕事ができるように親の家を直したら、補助の対象にならないと言われた。

子どもが少ないのはなぜか、その理由を見つけて対策を立てなければならない。安価で入場できる公園などもなく魅力がない。市内でも、住んでいる地域で利用できる施設も偏っている。

お金は、かけるべきところにかけるなければだめだ。ばらまきはだめ。

( 教育長 )

子どもたち、親御さんたちにとって、良いことができるように考えている。いただいたご意見は、それぞれの担当課へ繋いでいきたい。

( 質問 ) (大みか学区)

今後、適正配置を進めていくと、小さい学校から進めていくことになるのか。

楡形小の学級数が多いのは、広いエリアから集まっているからか。

( 事務局 )

楡形小の児童数が増えた要因は、城の丘団地の開発によるものと考えており、同じ世代の方たちが移り住んだので児童数が増えた経緯がある。ピ

ークは平成25年頃で、現在は減少傾向にある。

優先順位として、小さい学校から進めていくということではなく、総合的に検討する。小規模校のメリットは十分認識しているが、検討の対象にはなる。

**( 意見 ) (大みか学区)**

日立市は南北に長いので、人口そのものを適正化しよう、都市部にどのように人を集めていこうかという話を聞いた。都市計画とリンクさせた適正配置をしないと、20年後にミスマッチが起こっては後手に回る。どのように考えているか。

**( 教育部長 )**

社会資本の投資は、これまで駅を中心に行ってきた。日立市の場合は、企業の考え方が影響して山側に住宅が増えていった。山側団地は軒並み高齢化している。都市計画の視点からは、山側に住む高齢者に駅近くに住んでもらえるように検討している。しかし、個人の資産が関係しているので難しい。

また、少子化を止めることは非常に難しい。晩婚化の影響が大きく、出産する子の数が減り、生まれた子が子どもを産むためには、20～30年の時間がかかる。さらに、子どもを産むということには意思が働く。教育費がかかるなどの理由で第2、第3子の出産にブレーキがかかる。行政がコントロールできることではない。

日立に来てもらうには、働く場が必要だが、行政の施策では難しい。起死回生の策はない。ある程度の人口の中で楽しく安全に暮らしていくことを目指していくことになるのではないかと。暮らしやすい社会をみんなで作っていくということになるのではないかと考えている。

**( 意見 ) (金沢学区)**

人口減少のスピードが速いことが問題だ。対策する時間がない。このことを市民レベルで理解しないといけない。行政全体で考えてほしい。

山側団地は自然に戻すべきで、中心市街地に住むようにする。八反原(国分町)に発電所(ソーラーパネルの設置)を作ったのは間違いだ。あのような平地は居住スペースにするべきだ。

団地の入植も、数を制限しながら世代をバランスよくするべきだった。

南北に長いので、幼小中学校を縦統合すれば、単純に経費が浮く。空いた学校は民間に貸し出すなど、経営感覚を持ってほしい。

以上